



令和元年度

羽村・瑞穂地区学校給食組合財務書類

◇統一的な基準◇

令和3年2月

## 目 次

はじめに	1
I 財務書類3表	
1. 貸借対照表	2
2. 貸借対照表の分析	4
3. 行政コスト及び純資産変動計算書	7
4. 行政コスト及び純資産変動計算書の分析	8
5. 資金収支計算書	11
6. 資金収支計算書の分析	12
II 注記	13
III 附属明細書	15

## はじめに

平成 18 年 6 月に成立した「行政改革推進法」を契機に、地方の資産・債務改革の一環として「新地方公会計制度の整備」が位置づけられ、「新地方公会計制度研究会報告書〔平成 18 年 5 月総務省〕」で示された「基準モデル」又は「総務省方式改訂モデル」により、地方公共団体単体及び関係団体等も含む連結ベースでの財務書類を整備することとなりました。

多くの地方公共団体が財務書類の作成・公表に取り組んでいましたが、「基準モデル」のほか、「総務省方式改訂モデル」、「東京都方式」などの複数の作成方法が混在しており、団体間での比較が確保できない状況でした。そこで、総務省では、平成 27 年 1 月に「統一的な基準による地方公会計の整備促進について〔総務大臣通知〕」を示し、平成 27 年度から平成 29 年度までの 3 年間で、全ての地方公共団体において「統一的な基準」による財務書類等を作成するよう要請しました。

この統一的な基準による地方公会計では、新たに一部事務組合及び広域連合についても報告主体に加わったことから、当組合では平成 28 年度決算より「統一的な基準」による財務書類 3 表（貸借対照表・行政コスト及び純資産変動計算書・資金収支計算書）を作成・公表し、的確な財政状況の情報発信と今後の財政運営の健全化に努めてまいります。

# I 財務書類3表

## 1. 貸借対照表

貸借対照表は、年度末における資産、負債などの状況をひとつの表にまとめたものです。羽村・瑞穂地区学校給食組合が保有している資産（財産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄ってきたかを表示した一覧表です。「資産＝負債＋純資産」となり、左右が一致している表となっていることから、「バランスシート」とも呼ばれています。

### 貸借対照表

(単位：円)

借方				貸方			
科目	令和元年度	平成30年度	増減額	科目	令和元年度	平成30年度	増減額
【資産の部】				【負債の部】			
固定資産	582,320,142	602,322,773	▲ 20,002,631	固定負債	9,753,660	13,933,800	▲ 4,180,140
有形固定資産	451,791,288	471,144,580	▲ 19,353,292	地方債			
事業用資産	345,041,838	360,712,657	▲ 15,670,819	長期未払金			
土地	168,000,000	168,000,000	0	退職手当引当金			
立木竹				損失補償等引当金			
建物	796,188,800	796,188,800	0	その他	9,753,660	13,933,800	▲ 4,180,140
建物減価償却累計額	▲ 619,146,962	▲ 603,476,143	▲ 15,670,819	流動負債	18,503,274	17,845,847	657,427
工作物				1年内償還予定地方債			
工作物減価償却累計額				未払金			
船舶				未払費用			
船舶減価償却累計額				前受金			
浮標等				前受収益			
浮標等減価償却累計額				賞与等引当金	14,323,134	13,665,707	657,427
航空機				預り金			
航空機減価償却累計額				その他	4,180,140	4,180,140	0
その他					28,256,934	31,779,647	▲ 3,522,713
その他減価償却累計額				【純資産の部】			
建設仮勘定				固定資産等形成分	582,320,142	602,322,773	▲ 20,002,631
インフラ資産				余剰分（不足分）	19,518,700	▲ 844,183	20,362,883
土地							
建物							
建物減価償却累計額							
工作物							
工作物減価償却累計額							
その他							
その他減価償却累計額							
建設仮勘定							
物品	286,508,619	289,404,273	▲ 2,895,654				
物品減価償却累計額	▲ 179,759,169	▲ 178,972,350	▲ 786,819				
無形固定資産	4,212,315	5,555,295	▲ 1,342,980				
ソフトウェア	4,212,315	5,555,295	▲ 1,342,980				
その他							
投資その他の資産	126,316,539	125,622,898	693,641				
投資及び出資金							
有価証券							
出資金							
その他							
投資損失引当金							
長期延滞債権							
長期貸付金							
基金							
減債基金							
その他							
その他	126,316,539	125,622,898	693,641				
徴収不能引当金							
流動資産	47,775,634	30,935,464	16,840,170				
現金預金	47,775,634	30,935,464	16,840,170				
未収金							
短期貸付金							
基金							
財政調整基金							
減債基金							
棚卸資産							
その他							
徴収不能引当金							
資産合計	630,095,776	633,258,237	▲ 3,162,461	純資産合計	601,838,842	601,478,590	360,252
				負債及び純資産合計	630,095,776	633,258,237	▲ 3,162,461

## A 固定資産

固定資産とは、組合が所有する不動産、動産及びそれらの従属物を指します。

## B 流動資産

流動資産とは、1年以内に現金として回収される資産です。

当組合は、現金預金としての基金は存在しないため、歳計現金（前年度繰越金）のみの計上となります。また、未収金についても、当該年度において発生していません。

## C 負債

負債のうち、固定負債とは、1年を超えて支払期限が到達するものを指します。この内容のうち、退職手当引当金は、将来支給すべき退職手当のうち、当該年度末までに発生した額を言います。

一方、流動負債とは、1年以内に支払期限が到達するものを指します。この内容のうち、賞与等引当金は、翌年度（令和2年度）6月に支払予定の期末・勤勉手当とその法定福利費分のうち、当該年度負担相当額（令和元年12月から令和2年3月分）を指しています。

## D 純資産

資産形成のために充当した資源の蓄積となります。

## 2. 貸借対照表の分析

### (1) 貸借対照表の前年度比較

平成30年度までに組合では、約6億3325万円の資産を形成してきました。令和元年度については、物品の購入や当該年度の現金預金の増加といった資産形成を行ったものの、減価償却費や固定資産の除却による損失がこの額を上回ったことから、前年度比約316万円の減となっています。

また、負債については、リースの長期債務額の減少により、前年度比約352万円減少し、純資産は資産に対して95.5%の割合となっています。

【平成30年度】		【令和元年度】	
借方		貸方	
資産合計	633,258,237	負債合計	31,779,647
		純資産合計	601,478,590
		3,522,713円減	
資産合計	630,095,776	負債合計	28,256,934
		純資産合計	601,838,842

### (2) 指標による財政分析

#### ① 歳入額対資産比率

3,162,461円 減

360,252円 増

#### 【算出方法】

$$\frac{\text{資産}}{630,095,776 \text{ 円}} \div \frac{\text{歳入総額}}{416,155,299 \text{ 円}} = 1.5$$

歳入額対資産比率とは、公共資産の形成に何年分の歳入が充当されたかをみることができます。（普通地方公共団体の平均的な値は3.0～7.0の間といわれています。）この値が大きすぎると「歳入」に対して保持している資産が過大であると言えます。なお、当該年度の数値による計算であり、実際に公共資産の形成に何年かかっているのかを示すものではありません。

当組合の値は、1.5となっています。当組合は、労働集約型であり、その性質上多額の設備投資をして事業を実施する地方公共団体とは異なるため、数値が低くなっております。

「資産」における有形固定資産を維持していくためには、多額の維持管理経費が必要となります。そのため、現時点の値だけで判断することなく、将来を見据え、総合的・計画的に整備を進める必要があります。

#### 『参考』

	令和元年度	平成30年度
歳入額対資産比率	1.5	1.5

## ②社会資本形成における世代間負担比率

### 【算出方法（将来世代の負担割合）】

$$\frac{\text{負債}}{28,256,934 \text{ 円}} \div \frac{\text{総資産}}{630,095,776 \text{ 円}} = 4.5 \%$$

### 【算出方法（いままでの世代の負担割合）】

$$\frac{\text{純資産}}{601,838,842 \text{ 円}} \div \frac{\text{総資産}}{630,095,776 \text{ 円}} = 95.5 \%$$

総資産に占める負債及び純資産の割合を分析することによって、資産を形成するにあたってかかった負担を、将来世代といままでの世代がどのような割合で負担し合っているのかを見ることができます。

負債額の割合は「将来世代の負担割合」を示しており、普通地方公共団体では20～25%程度が標準といわれています。この値が高いほど将来世代の負担が重くなるので、低ければ低いほど良いと言えます。

純資産の割合は「いままでの世代の負担割合」を示しており、普通地方公共団体では75～80%程度が標準といわれています。

当組合の「将来世代の負担割合」は4.5%、「いままでの世代の負担割合」は95.5%となっております。当組合では、設備投資のための起債は行っておらず、財政状態は健全な水準にあります。

### 『参考』

	令和元年度	平成30年度
将来世代負担割合	4.5 %	5.02 %
いままでの世代負担割合	95.5 %	94.98 %

### ③有形固定資産減価償却率

#### 【算出方法】

$$\frac{\text{減価償却累計額}}{798,906,131 \text{ 円}} \div \frac{\text{取得価額}}{1,082,697,419 \text{ 円}} = 73.79 \%$$

貸借対照表に計上された有形固定資産のうち、土地以外の償却資産（建物や物品等）の取得価額に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に対して償却資産の取得からの程度経過しているのかを全体として把握することができます。100%に近いほど老朽化が進んでいるといえます。この値が高い場合、更新の近い資産が多くなっており、施設の老朽化に伴い、維持補修費が増えることも示しています。

当組合は、73.79%（平成30年度 72.08%）が、減価償却されていますので、今後の維持補修費の増大が懸念されます。

#### 『参考』

	令和元年度	平成30年度
有形固定資産減価償却率	73.79 %	72.08 %

### 3. 行政コスト及び純資産変動計算書

行政コスト計算書は、一会計期間における資産形成を伴わない経常的な行政活動にかかった費用・収益を表す財務書類です。経常費用には経常的な行政サービスを提供するための費用を計上し、経常収益には行政サービスの対価、すなわち受益者負担相当分が計上されます。

純資産変動計算書は、会計期間中の純資産の変動、すなわち政策形成上の意思決定または、その他の事象による純資産及びその内部構成の変動（その他の純資産減少原因・財源及びその他の純資産増加原因の取引高）を明らかにすることを目的としております。

#### 行政コスト及び純資産変動計算書

自 平成31年4月1日  
至 令和2年3月31日

(単位：円)

科目	金額		
経常費用	377,759,748		
業務費用	377,286,426		
人件費	199,060,765		
職員給与費	174,242,712		
賞与等引当金繰入額	14,323,134		
退職手当引当金繰入額			
その他	10,494,919		
物件費等	178,096,144		
物件費	133,263,559		
維持補修費	8,417,307		
減価償却費	36,223,318		
その他	191,960		
その他の業務費用	129,517		
支払利息			
徴収不能引当金繰入額			
その他	129,517		
移転費用	473,322		
補助金等	430,322		
社会保障給付			
他会計への繰出金			
その他	43,000		
経常収益	385,175,830		
使用料及び手数料			
その他	385,175,830		
純経常行政コスト	▲ 7,416,082		
臨時損失	7,055,830		
災害復旧事業費			
資産除売却損	7,055,830		
投資損失引当金繰入額			
損失補償等引当金繰入額			
その他			
臨時利益			
資産売却益			
その他			
純行政コスト	▲ 360,252		360,252
財源			
税収等			
国県等補助金			
本年度差額	360,252		360,252
固定資産等の変動（内部変動）		▲ 20,002,631	20,002,631
有形固定資産等の増加		22,582,876	▲ 22,582,876
有形固定資産等の減少		▲ 43,279,148	43,279,148
貸付金・基金等の増加		693,641	▲ 693,641
貸付金・基金等の減少			
資産評価差額			
無償所管換等			
その他			
本年度純資産変動額	360,252	▲ 20,002,631	20,362,883
前年度末純資産残高	601,478,590	602,322,773	▲ 844,183
本年度末純資産残高	601,838,842	582,320,142	19,518,700

## A 人件費

人件費は、職員給与費や議員報酬、退職給付費用（当該年度に退職手当引当金として新たに繰り入れた額）など、人にかかるコストを計上しています。

## B 物件費等

物件費等は、備品購入費や消耗品費、委託料、施設等の維持補修にかかる経費、減価償却費（固定資産の経年劣化等に伴う減少額）など、物にかかるコストを計上しています。

## C 移転費用

社会保障給付や他の団体への補助金などを指します。

## D 経常収益

構成市町分賦金や施設の使用料等、受益者が負担した収益を計上しています。

## E 純経常行政コスト

経常費用と経常収益の差額で、経常収益以外の収入によって賄われる金額を指します。

## F 固定資産等の変動（内部変動）

「有形固定資産等」の増加及び減少と「貸付金・基金等」の増加及び減少を示しています。

## G 前年度末純資産残高

年度開始時（昨年度末）の純資産残高を表しています。

# 4. 行政コスト及び純資産変動計算書の分析

## （1）指標による財政分析

### ①受益者負担比率

#### 【算出方法】

$$\frac{\text{経常収益}}{385,175,830 \text{ 円}} \div \frac{\text{経常費用}}{377,759,748 \text{ 円}} = 101.96 \%$$

自治体のコストのうち、行政サービスの受益者が直接的に負担する割合をいいます。自治体の平均的な値は、2%~8%の間といわれています。

当組合の特徴は、行政サービスを提供するための費用である「経常費用」に対して、それを賄う「経常収益」に構成市町からの分賦金が含まれていることから、一般的な値（2~8%）と比べ、非常に高い割合（101.96%）となっています。

これは、通常、普通地方公共団体においては、「税金」及び「補助金」は、「経常収益」に含まれないことから大幅なコスト超過となります。

一方、当組合のような一部事務組合は、主要な財源である分賦金（歳入総額の92.54%）を「受益者負担」と捉え、「経常収益」に含めていることから、このような高い割合となっています。

## ②純資産増加比率

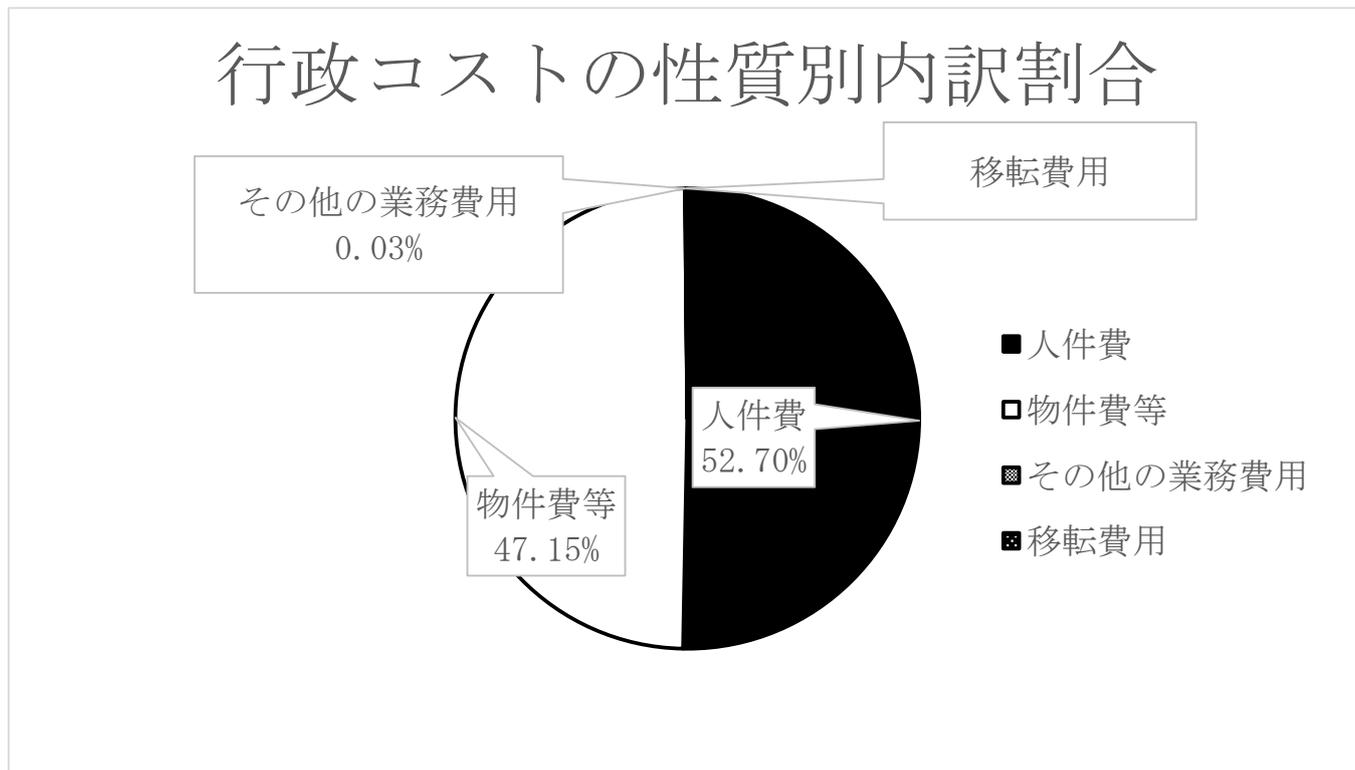
### 【算出方法】

$$\frac{\text{（本年度末純資産残高）}}{\text{601,838,842 円}} \div \frac{\text{（前年度末純資産残高）}}{\text{601,478,590 円}} - 1 = 0.06 \%$$

純資産増加比率は、当年度中の純資産の増減を表しています。0%を下回ると純資産が減少したことを示しています。

純資産は、前年度と比較して、総額で360,252円増加しています。内訳としては、行政コスト及び純資産変動計算書による純行政コストの余剰分360,252円があることによるものです。

## （2）グラフによる分析



このグラフは、コストの内訳を経費の性質から見たもので、当組合においては「人件費」が52.7%と最も大きくなっています。これは当組合の特徴であり、直接職員が活動することで行政サービスを提供しているため、人件費の割合が大きくなります。逆に、同じ行政サービスを提供するにしても、外部委託によりサービスを提供すれば物件費等の割合が大きくなります。

次に「物件費等」が47.15%となっています。当組合は、自前の施設を用いて行政サービスを提供しているため、施設の創業また維持管理に要する経費として、需用費、委託料、工事請負費を計上しているほか、当該年度の「減価償却費」も計上しています。これは、行政コスト計算書においては、経年劣化による資産価値の減少分を費用として捉えているためです。

## 5. 資金収支計算書

資金収支計算書とは、1年間の資金の増減を「業務活動収支」・「投資活動収支」・「財務活動収支」に区分し、残高を表示したもので、どのような活動に資金が必要であったかを表したものです。

### 資 金 収 支 計 算 書

自 平成31年4月1日  
至 令和2年3月31日

(単位：円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b> <b>A</b>	
業務支出	341,572,644
業務費用支出	341,099,322
人件費支出	199,096,979
物件費等支出	142,002,343
支払利息支出	
その他の支出	
移転費用支出	473,322
補助金等支出	430,322
社会保障給付支出	
他会計への繰出支出	
その他の支出	43,000
業務収入	385,175,830
税金等収入	
国県等補助金収入	
使用料及び手数料収入	
その他の収入	385,175,830
臨時支出	
災害復旧事業費支出	
その他の支出	
臨時収入	
<b>業務活動収支</b>	<b>43,603,186</b>
<b>【投資活動収支】</b> <b>B</b>	
投資活動支出	22,582,876
公共施設等整備費支出	22,582,876
基金積立金支出	
投資及び出資金支出	
貸付金支出	
その他の支出	
投資活動収入	
国県等補助金収入	
基金取崩収入	
貸付金元金回収収入	
資産売却収入	
その他の収入	
<b>投資活動収支</b>	<b>▲ 22,582,876</b>
<b>【財務活動収支】</b> <b>C</b>	
財務活動支出	4,180,140
地方債償還支出	
その他の支出	4,180,140
財務活動収入	
地方債発行収入	
その他の収入	
<b>財務活動収支</b>	<b>▲ 4,180,140</b>
本年度資金収支額	16,840,170
前年度末資金残高	30,935,464
本年度末資金残高 <b>D</b>	47,775,634
前年度末歳計外現金残高	
本年度歳計外現金増減額	
本年度末歳計外現金残高	
本年度末現金預金残高	47,775,634

## A 業務活動収支

資産形成を目的としない支出、収入を計上します。すなわち、経常的な行政活動に係る資金の収支を項目別に計上しています。

## B 投資活動収支

支出には、公共資産を整備した金額が入ります。一方の収入には、その整備を目的とした収入を計上します。例として、国の補助を受けて実施する事業の特定財源である国庫補助金等が収入に計上されます。

## C 財務活動収支

リース債務の返済支出や、公債費の償還支出とそれに伴う特定財源の収入などが計上されません。

## D 本年度末資金残高

翌年度繰越金を指します。

# 6. 資金収支計算書の分析

当組合では、「業務活動収支」の収入43,603,186円が「投資活動収支」の支出22,582,876円と「財務活動収支」の支出4,180,140円を賄っています。この結果、歳計現金残高は、前年度対比16,840,170円の増となっています。前年度までの繰越金との累計で、令和元年度の繰越金は47,775,634円となります。

## II 注記

### 1 重要な会計方針

#### (1)有形固定資産等の評価基準及び評価方法

①有形固定資産等・・・取得価額

#### (2)有形固定資産等の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産は除きます。）・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建	物	10年～50年
物	品	5年～13年

②リース資産

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

#### (3)引当金の計上基準及び算定方法

①賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びに、それらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

#### (4)リース取引の処理方法

①ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引

（リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。）

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

#### (5)資金収支計算書における資金の範囲

現金（手元現金及び要求払預金）及び現金同等物（羽村・瑞穂地区学校給食組合公金の保管及び運用に関する基準において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等をいいます。）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

**(6) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項**

①物品の計上基準

取得価額又は見積価格が50万円以上の場合に資産として計上しています。

**2 重要な会計方針の変更等**

重要な会計方針の変更はありません。

**3 重要な後発事象**

該当する事象はありません。

**4 偶発債務**

該当する事象はありません。

### Ⅲ 附属明細書

#### 1 貸借対照表の内容に関する明細

##### (1) 資産項目の明細

##### ①有形固定資産の明細

(単位：円)

区分	前年度末残高 (A)	本年度増加額 (B)	本年度減少額 (C)	本年度末残高 (A) + (B) - (C) (D)	本年度末 減価償却累計額 (E)	本年度償却額 (F)	差引本年度末残高 (D) - (E) (G)
事業用資産	964,188,800			964,188,800	619,146,962	15,670,819	345,041,838
土地	168,000,000			168,000,000			168,000,000
建物	796,188,800			796,188,800	619,146,962	15,670,819	177,041,838
物品	289,404,273	22,582,876	25,478,530	286,508,619	179,759,169	4,180,140	106,749,450
合計	1,253,593,073	22,582,876	25,478,530	1,250,697,419	798,906,131	19,850,959	451,791,288

##### ②有形固定資産の行政目的別明細

(単位：円)

区分	生活インフラ・ 国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	合計
事業用資産		345,041,838						345,041,838
土地		168,000,000						168,000,000
建物		177,041,838						177,041,838
物品		106,749,450						106,749,450
合計		451,791,288						451,791,288

##### (2) 負債項目の明細

##### ①引当金の明細

(単位：円)

区分	前年度末残高	本年度増加額	本年度減少額		本年度末残高
			目的使用	その他	
賞与等引当金	13,665,707	14,323,134	13,665,707		14,323,134
合計	13,665,707	14,323,134	13,665,707		14,323,134

2 行政コスト計算書の内容に関する明細

(1) 補助金等の明細

(単位：円)

区分	名称	相手先	金額	支出目的
他団体への公共施設等整備補助金等 (所有外資産分)	該当なし			
	計			
その他の補助金等	東京都市町村議会議員公務災害補償等組合負担金	東京都市町村議会議員公務災害補償等組合	34,500	議員の公務災害
	退職手当組合負担金	東京都市町村職員退職手当組合	0	職員の退職
	公平委員会負担金	東京都市町村公平委員会	49,000	公平委員会事務
	職員互助組合負担金	羽村・瑞穂地区学校給食組合職員互助会	73,000	互助組合事業
	財務会計電算処理負担金	羽村市	229,412	会計処理の事務委託
	職員研修負担金	東京都市町村職員研修所等	29,410	職員研修
	多摩地区共同調理場連絡協議会負担金	協議会会長(各市町村：毎年持ちまわり)	5,000	協議会での研修や情報交換
	学校調理師研究会負担金	食の安全に関する調理員講習会実行委員長	10,000	調理員の研修
	計		430,322	
合計			430,322	

3 純資産変動計算書の内容に関する明細

(1) 財源情報の明細

(単位：円)

区分	金額	内訳			
		国県等補助金	地方債	税収等	その他
純行政コスト	▲ 360,252				▲ 360,252
有形固定資産等の増加	22,582,876				22,582,876
貸付金・基金等の増加	693,641				693,641
その他					
合計	22,916,265				22,916,265

4 資金収支計算書の内容に関する明細

(1) 資金の明細

(単位：円)

種類	本年度末残高
現金	47,775,634
合計	47,775,634